三岳荘小松崎病院

人生の最終段階における医療・ケアの指針

1 基本方針

人生の最終段階を迎える患者とその家族が、医師を含め多専門職種で構成される医療・ケアチーム（以下、「医療・ケアチーム」）との話し合いのもと、患者本人の意思と権利が尊重され、患者本人が心安らかな終末期医療を受けられるよう努める。

2 人生の最終段階の定義

人生の最終段階とは、最善の医療を尽くしても治療効果が期待できず、回復の見込みがない状況や、病状が進行性に悪化して食い止められず、予測される死への対応が必要と判断される場合である。

- (1) がん末期など、予後が数日から数カ月と予測が出来る場合
- (2) 慢性疾患の急性増悪を繰り返し、予後不良に陥る場合
- (3) 心身機能の高度障害（認知症や老衰など）で死を迎える場合
- (4) 認知症で自らが意思決定をすることができない場合
- (5) 誤嚥性肺炎を繰り返すなど、食事が食べられなくなった場合
- (6) 身寄りがいない人で意思決定が必要な場合

なお、どのような状態が人生の最終段階かは、患者の状態を踏まえて、医療・ケアチームにて適切に判断するものとする。

3 人生の最終段階における医療・ケアの在り方

- (1) 医師等の医療従事者から、現状、医療行為の選択肢、今後の予測などの適切な情報の提供を行う。
- (2) 医療・ケアを受ける患者本人や家族が医療・ケアチームと十分な話し合いを行えるようにする。
- (3) 患者本人の意思を最優先し医療・ケアを提供する。
- (4) 患者本人の意思は変化するものであることを踏まえ、本人と家族との話し合いが繰り返し行われるようにする。
- (5) 話し合いの内容は、医療・ケアチームで情報共有する。
- (6) 身体的な苦痛のみならず、家族も含めた精神的・社会的な援助を総合的に行う。
- (7) 生命を短縮させる意図をもつ積極的安楽死は、本指針の対象とはしない。

4 具体的な医療・ケアの方針決定支援

(1) 患者本人の意思が確認できる場合

- ① 患者本人の意思を尊重する。
- ② 患者の状態に応じた専門的な医学的検討を経て、医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明を行う。そのうえで、患者本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた患者本人による意思決定を尊重し、医療・ケアチームとして方針の決定を行う。
- ③ 患者本人の意思は変化しうるものであり、患者本人が自らの意思を伝えられない可能性もあり得る。よって本人に家族等、自らの意思を推定する者として前もって定めていただき、本人の主体性を重んじて一緒に医療・ケアチームと共に繰り返し話し合いを行う。
- ④ このプロセスにおいて話し合った内容は、その都度、文書にまとめるものとする。

(2) 患者本人の意思が確認できない場合

- ① 家族等が患者本人の意思を推定できる場合には、その推定意思を尊重し、患者本人にとっての最善の方針をとる。
- ② 家族等が患者本人の意思を推定できない場合には、患者本人にとって何が最善であるかについて、患者本人に代わる者として家族等と十分に話し合い、患者本人にとっての最善の方針をとる。

また、時間の経過、心身の状態の変化、医学的評価の変更等に応じて、このプロセスを繰り返し行う。

- ③ 家族等がない場合及び家族等が判断を医療・ケアチームに委ねる場合には、患者本人にとっての最善の方針をとる。
- ④ このプロセスにおいて話し合った内容は、その都度、文書にまとめておくものとする。

(3) 複数の専門家からなる話し合いの場の設置

上記(1)、(2)の場合における方針の決定に際し、患者本人と医療・ケアチームないし家族等と医療・ケアチームの話し合いの中で、妥当で適切な医療・ケアの内容についての合意が得られない場合などについては、医療・ケアチーム以外の者を加え複数の専門家からなる話し合いの場を別途設置し、方針等について検討および助言を行う。

附 則

この指針は、令和7年6月1日から施行する。